

# わたしの心

ある日、わたしの家ぞくが、かんせんしようにかかりました。わたしもうつつているかもしれないということで、けんさをうけました。すると、わたしもかんせんしていることがわかりました。だから、学校をしばらくお休みしなければならなくなりました。ともだちに会えません。いっしょにあそぶことができせん。わたしはかなしくなりました。

家ですごしていると、どんどんふあんな気もちでいっぱいになってきました。

「びょう気がうつるよ。あっち行って。」とか言われたらどうしよう、みんながあそんでくれなかったらどうしよう、いろんなことを考えていると、とてもこわくなってきました。

しばらく休んでから、びょういんの先生に、

「もうだいじょうぶです。なおったから、明日から学校に行ってもいいですよ。」と言われました。ひさしぶりにみんなに会えることはとてもうれしいけど、やっぱりふあんでいっぱいです。

ひさしぶりの学校です。朝、わたしはドキドキしながら教室に入りました。わたしはがんばって、

「おはよう。」  
と言いました。でも、だれも気づいてくれないのか、自分のせきにあるいていっても、だれもわたしの方に来てくださいせん。

「来ない方がよかったな・・・。」



そんなとき、よしみさんがわたしに声をかけてくれました。わたしは、とてもうれしくなつて、思わずなみだがこぼれました。  
わたしの心があたたかくなりました。

